

交付運用報告書

受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
当ファンドは主として外国投資信託への投資を通じて、世界各国の転換社債等に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。なお、投資先外国投資信託において、原則として対円で為替ヘッジを行います。当作成対象期間におきましても、当該運用方針に沿った運用を行いました。ここに、その運用状況をご報告申し上げます。

引き続き、一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

UBSグローバルCBオープン
(年1回決算型・為替ヘッジあり)

追加型投信／内外／その他資産（転換社債）

第10期（決算日2023年9月19日）
作成対象期間（2022年9月21日～2023年9月19日）

第10期末（2023年9月19日）	
基準価額	11,557円
純資産総額	1,033百万円
騰落率*	1.9%
分配金合計	0円

※騰落率は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算しています。

UBSアセット・マネジメント株式会社

東京都千代田区大手町一丁目2番1号 Otemachi Oneタワー
<お問い合わせ先> 投信営業部 03-5293-3700
(受付時間：営業日の午前9時～午後5時、土、日、祝日除く)

<http://www.ubs.com/japanfunds>

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を電磁的方法により提供することが定められております。運用報告書（全体版）は以下の方法でご覧いただけます。

<閲覧方法>

上記の委託会社のホームページアドレス⇒「ファンド検索」にファンド名（日経新聞掲載名でも可）を入力⇒表示されたリストの「ファンド名」欄にある当該ファンドの名称をクリック⇒「運用報告書（全体版）」のタブをクリック

なお、運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。書面をご希望される場合には、販売会社までお問い合わせください。

©UBS2023。キーンシボル及びUBSの各標章は、UBSの登録又は未登録商標です。UBSは全ての権利を留保します。

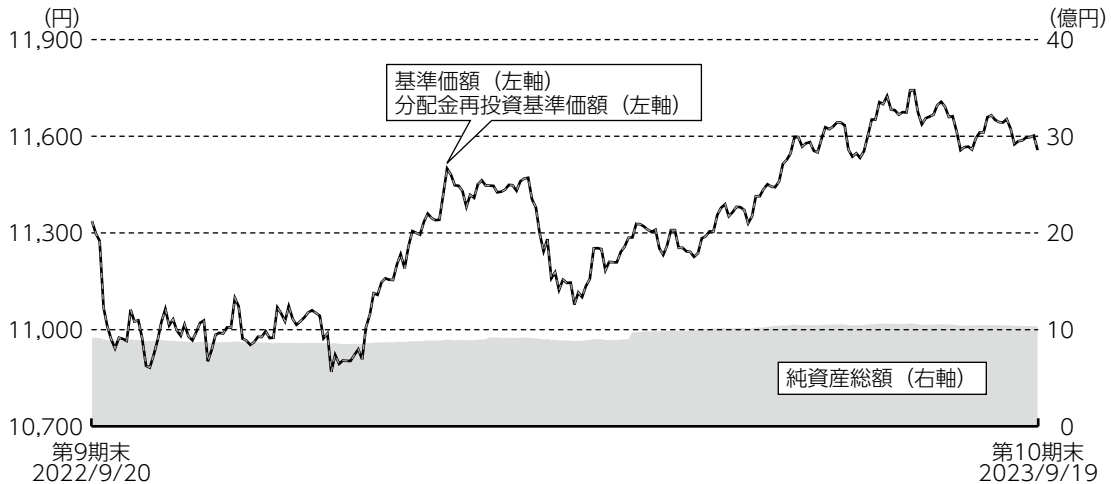
UD FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

運用経過

基準価額等の推移について

(2022年9月20日～2023年9月19日)



第10期首：11,337円

第10期末：11,557円（既払分配金 0円）

騰落率： 1.9%（分配金再投資ベース）

- (注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

基準価額は期首比で220円値上がりしました。なお、基準価額の騰落率は+1.9%となりました。

基準価額の主な変動要因

- ・実質的に投資を行っている世界各国の転換社債等からのインカム・ゲイン（利子収入）
- ・実質的に投資を行っている世界各国の転換社債等からのキャピタル・ゲインまたはロス（価格変動に伴う損益）
- ・為替ヘッジ等に伴うコスト等（円と世界各国の転換社債等に係る通貨の短期金利差相当分の損益）

当期の基準価額は、実質的に組入を行っている転換社債等からのキャピタル・ゲインやインカム・ゲインなどのプラス要因が、為替ヘッジ等に伴うコストや、信託報酬などのマイナス要因を上回ったため、値上がりしました。

1万口当たりの費用明細

項目	当期 2022/9/21~2023/9/19		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	118円	1.042%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額（月末値の平均）は11,284円です。
（投信会社）	（ 25）	（0.219）	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	（ 87）	（0.768）	運用報告書等各種書類の交付、口座内でのファンドに係る管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	（ 6）	（0.055）	運用財産の管理、運用指図実行等の対価
その他費用	10	0.087	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（監査費用）	（ 3）	（0.026）	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用
（印刷費用等）	（ 6）	（0.060）	法定開示書類作成の際に業者に支払う作成・印刷・交付等に係る費用（EDINET含む）等
（その他）	（ 0）	（0.002）	受益権の管理事務に関連する費用等
合計	128	1.129	

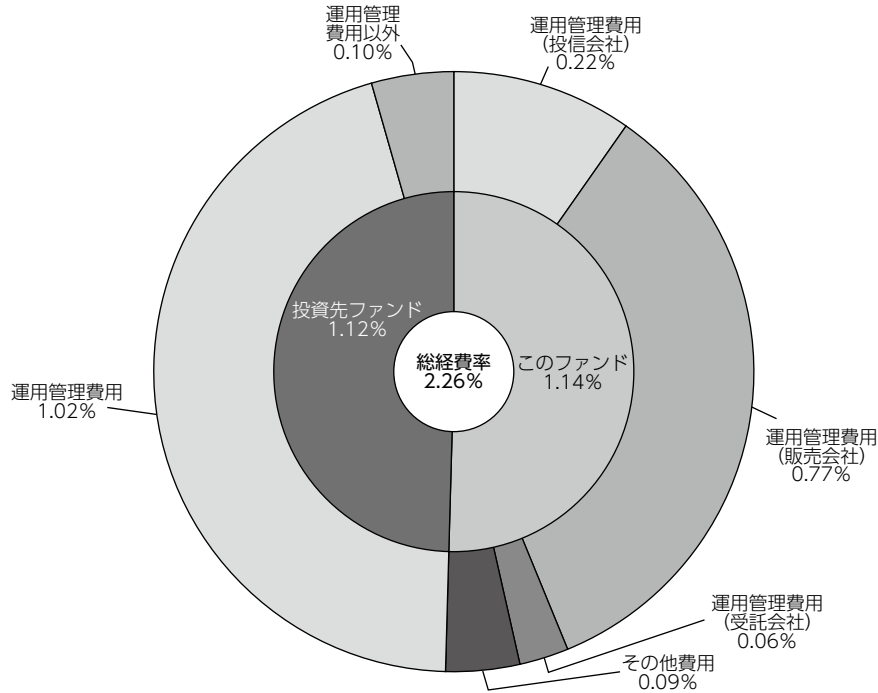
(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

（参考情報） 総経費率



総経費率 (①+②+③)	2.26%
①このファンドの費用の比率	1.14%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	1.02%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.10%

(注1) ①の費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) ②・③の費用は、当該投資先ファンドの期中の平均純資産総額で除して算出した概算値です。

(注3) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。

(注5) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注6) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.26%です。

最近5年間の基準価額等の推移について

(2018年9月18日～2023年9月19日)



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、2018年9月18日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

	2018年9月18日 期初	2019年9月17日 決算日	2020年9月17日 決算日	2021年9月17日 決算日	2022年9月20日 決算日	2023年9月19日 決算日
基準価額 (円)	11,815	11,850	11,578	12,934	11,337	11,557
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	0.3	△ 2.3	11.7	△ 12.3	1.9
純資産総額 (百万円)	1,423	1,171	1,396	1,315	919	1,033

(注) 「分配金再投資基準価額騰落率」および「期間分配金合計 (税込み)」は、表中の直前の決算日または期初からの騰落率および分配金合計 (税込み) です。

※当ファンドは、ベンチマーク対比の運用ではなく、アクティブ度の高い運用を行う方針であることから、運用の目標となるベンチマークや投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数 (参考指数) はありません。

投資環境について

グローバル転換社債（以下「CB」）市場

当期のCB市場は上昇しました。

期の序盤、米国をはじめとする主要先進国・地域による積極的な金融引き締めとそれに伴う景気悪化への懸念などから、CB市場は下落しました。しかし2022年11月に入り、米国のインフレのピークアウト観測が広がったことなどを手掛かりに、CB市場は反発に転じ、2023年の年明け以降も概ね上昇基調を維持しました。3月には、米中堅地銀の経営破綻をきっかけとした金融システムへの不安が欧州にも波及し、CB市場への売り圧力が強まる局面もありましたが、欧米当局の迅速な対応により間もなく持ち直しました。4月以降は、米国の底堅い景気動向と企業業績などに下支えされて、CB市場は概ね上昇基調で推移しました。期の終盤、米連邦準備制度理事会（FRB）による金融引き締めの長期化観測や、中国経済の先行き不透明感などが相場の重石となる局面もありましたが、結局、CB市場は前期末比で上昇して期を終えました。

ポートフォリオについて

当ファンドのポートフォリオについて

UBS（CAY）グローバルCBファンド（円ヘッジクラス）およびUBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）を投資対象とし、主としてUBS（CAY）グローバルCBファンド（円ヘッジクラス）への投資を通じて、世界各国のCB等を実質的に投資を行いました。なお、UBS（CAY）グローバルCBファンド（円ヘッジクラス）への投資比率は概ね90%以上を維持しました。

UBS（CAY）グローバルCBファンド（円ヘッジクラス）のポートフォリオについて

CB等の利回り、発行体リスク、流動性などを考慮して、銘柄選択を行いました。また、外貨建資産については、対円で為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図りました。

UBS（CAY）グローバルCBファンドの組入資産の内容

（2023年8月31日現在）

ポートフォリオの特性

平均直接利回り	2.11%
平均最終利回り	8.14%
株価連動率（デルタ*）	13.13%
デュレーション**	1.88
平均格付	BBB-
銘柄数	102

*デルタ：
CBが、原資産である株式の値動きにどの程度連動するかを表したもので、高いほど株式の値動きに連動しやすい。

**デュレーション：
金利変動に伴う債券価格の変動性を示す指標で、長いほど金利変動の影響を受けやすい。

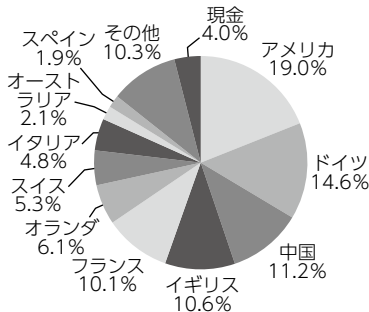
*利回りは、計算日時点の評価に基づくものであり、売却や償還による差損益等を考慮した後のUBS（CAY）グローバルCBファンドの「期待利回り」を示すものではありません。

*平均格付とは、評価基準日時点でUBS（CAY）グローバルCBファンドが保有している有価証券にかかる信用格付を加重平均したものであり、UBS（CAY）グローバルCBファンドに係る信用格付ではありません。

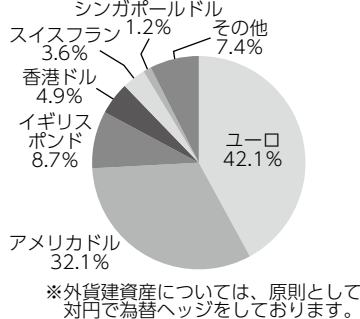
組入上位10銘柄（銘柄数合計：102銘柄）

銘柄名	利率	償還日	国	構成比
アブダビ国営石油	0.700%	2024/ 6/ 4	U A E	1.7%
ウェルズ・ファーゴ（永久債）	7.500%	-	アメリカ	1.3%
セイル・バンテージ	0.000%	2027/ 1/13	中国	1.2%
ケッペルREIT	1.900%	2024/ 4/10	シンガポール	1.2%
微創医療科学 [マイクロポート・サイエンティフィック]	0.000%	2026/ 6/11	中国	1.2%
ファーマロン・ベイジン	0.000%	2026/ 6/18	中国	1.2%
ゼロ・インベストメンツ	0.000%	2025/12/ 2	オーストラリア	1.2%
シリウス・ミネラルズ・ファイナンスNo.2	5.000%	2027/ 5/23	イギリス	1.2%
ファーマング・グループ	3.000%	2025/ 1/21	オランダ	1.2%
ジョウハイヤーIntl	1.000%	2025/11/ 5	中国	1.2%

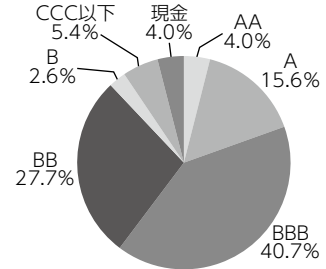
国別構成比



通貨別構成比



格付別構成比



※各構成比は、「UBS（CAY）グローバルCBファンド」の評価額合計（キャッシュ、先物等含む）に占める割合です。なお、各比率の合計は端数処理の関係上100%とならない場合があります。

※格付については、S&P、ムーディーズの2社の格付機関による格付けのうち、低い格付けを採用しています。上記2社の格付けが付与されていない銘柄については、UBSの独自の判断とします。キャッシュはAAAに分類しています。

※国は、CB等の転換対象とする株式の情報に基づいて分類しています。

※「UBS（CAY）グローバルCBファンド」の投資運用会社から入手した情報を元に作成しております。

UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）のポートフォリオについて

UBS短期円金利プラス・マザーファンドへの投資を通じて、わが国のコマーシャル・ペーパーを含む短期金融商品および内外の円建ての公社債に投資を行い、利息等収入の確保を目指して運用を行いました。当期におきましては、利回りの優位性を勘案しつつ、無利子金融商品やコール・ローン等での運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは、ベンチマーク対比の運用ではなく、アクティブ度の高い運用を行う方針であることから、運用の目標となるベンチマークや投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数（参考指数）はありません。

分配金について

当期の収益分配金につきましては、基準価額の水準等を勘案し、分配を行わないこととしました。なお、収益の分配にあてなかった利益につきましては、運用の基本方針に基づいて元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳（1万口当たり・税引前）

項目	第10期
	2022年9月21日~2023年9月19日
当期分配金	-円
（対基準価額比率）	(-%)
当期の収益	-円
当期の収益以外	-円
翌期繰越分配対象額	5,476円

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は、「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) 「当期の収益」、「当期の収益以外」は小数点以下切捨てで算出しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

今後の運用方針

投資環境の見通し

CB市場のバリュエーションは、概ね適正水準にあると見ています。足元のCBの新発債市場では、新たに資金調達を実施する企業や借換え需要の増加などを背景に活況な状況にあります。

CBは株価下落局面で下値抵抗力を維持しつつ、株価上昇局面ではそのメリットが期待できることから、引き続き投資魅力度は高いと考えています。こうした環境下で、今後もファンドの特色に沿った運用を行ってまいります。

当ファンドの今後の運用方針

UBS（CAY）グローバルCBファンド（円ヘッジクラス）の投資比率を高位に維持する方針です。

UBS（CAY）グローバルCBファンド（円ヘッジクラス）の今後の運用方針

世界各国のCB等を投資対象とし、利回り、発行体リスク、流動性などを踏まえ組入銘柄および組入比率を決定します。なお、外貨建資産については、対円で為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。

UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）の今後の運用方針

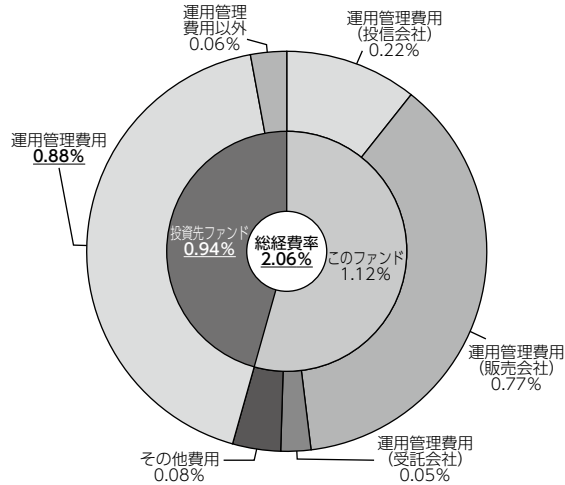
短期金融市場の状況を注視しつつ、UBS短期円金利プラス・マザーファンドへの投資を通じて、コール・ローン等で運用する予定です。

お知らせ

第9期交付運用報告書におきまして、記載内容の一部に誤りがございました。受益者のみなさまに深くお詫び申し上げますとともに、下記の内容に訂正させていただくことをご報告いたします。

[訂正箇所] 3ページ（参考情報）総経費率

正（訂正後）
（参考情報）総経費率

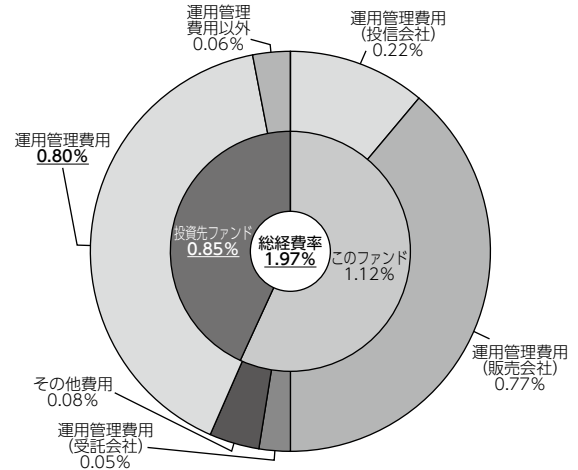


総経費率 (①+②+③)	2.06%
①このファンドの費用の比率	1.12%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.88%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.06%

- (注1) ①の費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
 (注2) ②・③の費用は、当該投資先ファンドの期中の平均純資産総額で除して算出した概算値です。
 (注3) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。
 (注4) 各比率は、年率換算した値です。
 (注5) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。
 (注6) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は**2.06%**です。

誤（訂正前）
（参考情報）総経費率



総経費率 (①+②+③)	1.97%
①このファンドの費用の比率	1.12%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.80%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.06%

- (注1) ①の費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
 (注2) ②・③の費用は、当該投資先ファンドの期中の平均純資産総額で除して算出した概算値です。
 (注3) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。
 (注4) 各比率は、年率換算した値です。
 (注5) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。
 (注6) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

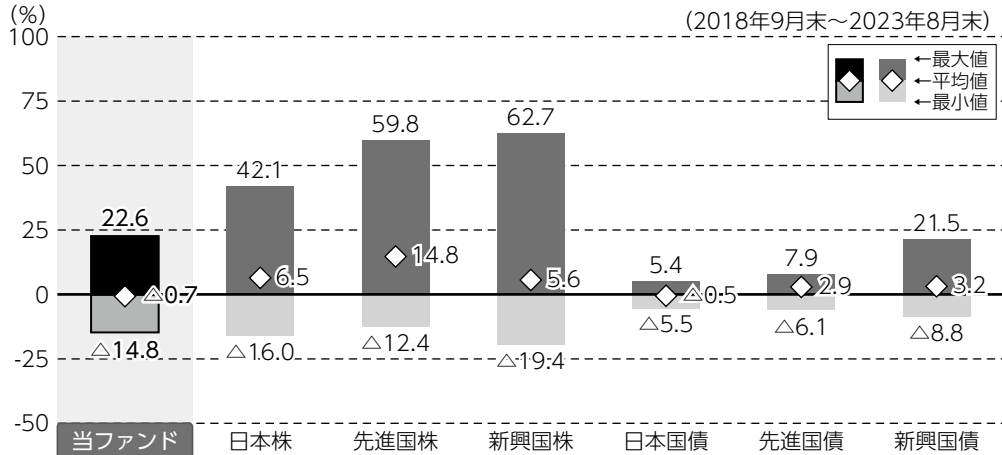
当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は**1.97%**です。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／その他資産（転換社債）	
信託期間	信託設定日（2013年9月26日）から2033年9月16日まで	
運用方針	<p>主として外国籍投資信託であるUBS（CAY）グローバルCBファンド（円ヘッジクラス）（以下「指定外国投資信託」といいます。）への投資を通じて、世界各国の転換社債等[※]に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。なお、投資先外国投資信託において、原則として対円での為替ヘッジを行います。</p> <p>※「転換社債等」とは、一定の条件で株式に転換できる権利のついた社債や、これと同様の性質を有する証券、証書などの有価証券をいいます。（有価証券の種類にかかわらず、委託会社（指定外国投資信託の投資運用会社を含む）が同様の投資効果を得られると判断するものを含みます。）</p>	
主要投資対象	UBS（CAY）グローバルCBファンド（円ヘッジクラス）	世界各国の転換社債等を主要投資対象とします。
	UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）	UBS短期円金利プラス・マザーファンドへの投資を通じて、わが国のコマーシャル・ペーパーを含む短期金融商品および内外の円建ての公社債を実質的な主要投資対象とします。
運用方法	収益性や流動性を考慮し、指定外国投資信託とUBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）との投資割合については、特に制限は設けませんが、通常の運用状況においては、指定外国投資信託の受益証券の組入れを高位に維持することを基本とします。	
	UBS（CAY）グローバルCBファンド（円ヘッジクラス）	主として世界各国の転換社債等に投資を行い、利回り、発行体リスク、流動性などを踏まえ組入銘柄および組入比率を決定します。なお、信用格付けが投資適格未滿（BBB-未滿）の銘柄への投資も行います。外貨建資産については原則として対円での為替ヘッジを行うことにより為替変動リスクの低減を図ります。
	UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）	<p>直接投資を行う場合の公社債については、原則として、購入時においてS&P、ムーディーズ、格付投資情報センター、日本格付研究所のうち1社以上の格付機関より、Aa3/AA-以上の長期格付けが付与されたものに投資を行います。また、購入時において残存期間が2年以内の公社債とします。</p> <p>UBS短期円金利プラス・マザーファンドの組入れについては、50%以上を維持することを基本とします。</p> <p><UBS短期円金利プラス・マザーファンド> 代表的銀行の3ヵ月大口預金金利を上回る信託財産の安定的な成長を目指して運用を行います。</p>
分配方針	毎決算時（毎年9月17日、休業日の場合には翌営業日）に、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の中から市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配を行わない場合があります。分配にあてなかった利益の運用については運用の基本方針に基づいて元本部分と同一の運用を行います。	

※資金動向、信託財産の規模および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



- * 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- * 2018年9月から2023年8月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
- * 騰落率は直近の月末から最大60ヵ月さかのぼった算出結果であり、当ファンドの決算日に対応したものではありません。
- * 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額に基づいて計算した騰落率と異なる場合があります。

各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)	東証株価指数 (TOPIX) に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社に帰属します。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース)	MSCIインデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)	
日本国債	NOMURA-BPI国債	NOMURA-BPIに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本、円換算ベース)	FTSE世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド (円換算ベース)	JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P.Morgan Securities LLCに帰属します。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

各資産クラスの騰落率について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しております。株式会社野村総合研究所および各指数のデータ提供者は、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

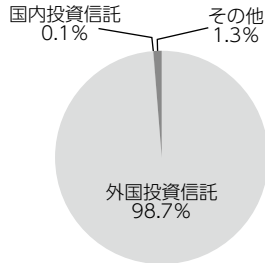
(2023年9月19日現在)

組入上位ファンド (銘柄数: 2銘柄)

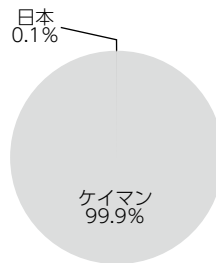
銘柄	比率 (%)
UBS (CAY) グローバルCBファンド (円ヘッジクラス)	98.7
UBS短期円金利プラス・ファンド (適格機関投資家向け)	0.1

(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

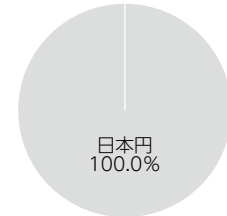
資産別配分



国・地域別配分



通貨別配分



(注1) 「資産別配分」、「通貨別配分」の比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合、「国・地域別配分」の比率は当ファンドのポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注2) 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、「運用報告書 (全体版)」をご覧ください。

純資産等

項目	第10期末 2023年9月19日
純資産総額	1,033,135,427円
受益権総口数	893,950,803口
1万口当たり基準価額	11,557円

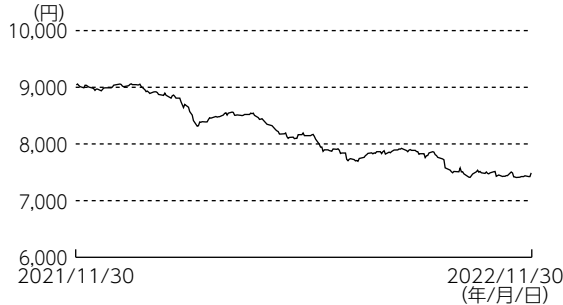
(注) 当期 (第10期) 中における追加設定元本額は172,362,400円、同解約元本額は89,220,104円です。

組入上位ファンドの概要

(2022年11月30日現在)

◆UBS (CAY) グローバルCBファンド（円ヘッジクラス）

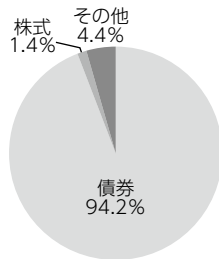
基準価額の推移（2021年11月30日～2022年11月30日）



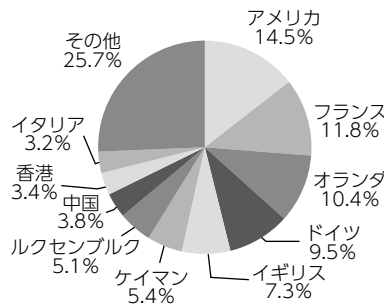
組入上位10銘柄（銘柄数合計：100銘柄）

銘柄名	種別	比率(%)
ELM BV for Swiss Re, Ltd. 3.25% due 06/13/24	転換社債	1.4
Wells Fargo & Co. 7.50%	優先株式	1.4
Idorsia Ltd. 2.13% due 08/04/28	転換社債	1.4
Abu Dhabi National Oil Co. 0.70% due 06/04/24	転換社債	1.3
China Conch Venture Holdings International, Ltd. 0.00% due 09/05/23	転換社債	1.3
Sail Vantage Ltd. 0.00% due 01/13/27	転換社債	1.3
Sirius Minerals Finance NO 2 Ltd. 5.00% due 05/23/27	転換社債	1.2
Keppel REIT 1.90% due 04/10/24	転換社債	1.2
Pharmaron Beijing Co. Ltd. 0.00% due 06/18/26	転換社債	1.2
Maisons du Monde S.A. 0.13% due 12/06/23	転換社債	1.2

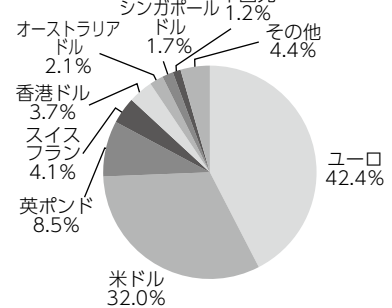
資産別配分



国・地域別配分



通貨別配分



※外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジをしております。

- (注1) 「基準価額の推移」は組入ファンドの直近の計算期間、「組入上位10銘柄」、「資産別配分」、「国・地域別配分」、「通貨別配分」は組入ファンドの直近の決算日現在のものです。
- (注2) 「組入上位10銘柄」、「資産別配分」、「通貨別配分」の比率は組入ファンドの純資産総額に対する評価額の割合、「国・地域別配分」の比率は組入ファンドのポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。
- (注3) 「国・地域別配分」は、発行国・地域または投資国・地域を表示しております。
- (注4) 「通貨別配分」はポートフォリオ部分について表示しており、預金およびその他資産（負債控除後）は「その他」に含めて表示しております。
- (注5) 上記のポートフォリオの内容は、監査済みアニュアルレポートの情報に基づき作成しています。

1万口当たりの費用明細

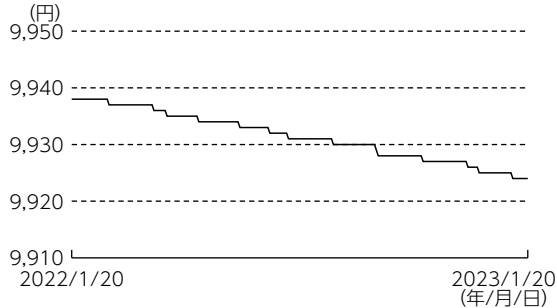
当該情報は開示されていないため、記載しておりません。

組入上位ファンドの概要

(2023年1月20日現在)

◆UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）

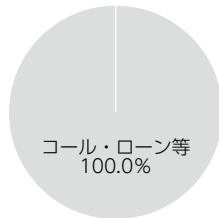
基準価額の推移（2022年1月20日～2023年1月20日）



組入上位銘柄

2023年1月20日現在、有価証券等の組入れはありません。

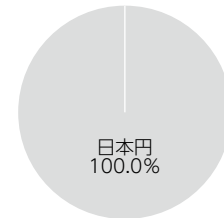
資産別配分



国・地域別配分

2023年1月20日現在、有価証券等の組入れはありません。

通貨別配分



(注1) 「基準価額の推移」は組入ファンドの直近の計算期間、「組入上位銘柄」、「資産別配分」、「国・地域別配分」、「通貨別配分」は組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注2) 「組入上位銘柄」、「資産別配分」、「通貨別配分」の比率は組入ファンドの純資産総額に対する評価額の割合、「国・地域別配分」の比率は組入ファンドのポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注3) 上記のポートフォリオの内容は、組入れられたファンドの投資資産を表示しております。なお、直接投資しているのはマザーファンドですが、「組入上位銘柄」、「資産別配分」、「国・地域別配分」、「通貨別配分」はその先の投資資産を表示しております。

1万口当たりの費用明細

項目	当期 2022/1/21～2023/1/20	
	金額	比率
信託報酬	4円	0.044%
（投信会社）	(1)	(0.011)
（販売会社）	(0)	(0.001)
（受託会社）	(3)	(0.032)
その他費用	0	0.002
（その他）	(0)	(0.002)
合計	4	0.046

※期中の平均基準価額は9,931円です。

(注1) 「1万口当たりの費用明細」は、直近の計算期間のものです。費用項目の概要については、2ページ「1万口当たりの費用明細」の項目の概要をご参照ください。

(注2) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注3) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注4) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。